

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良市立東登美ヶ丘小学校 早川 知奈美
山本 達也
西村 翔
島田 歩美
澤井 佑太

1. 単元名 「奈良県の伝統工芸品を未来へつなげよう」

2. 単元の目標

奈良県の長く続く伝統工芸の「奈良墨」にふれる体験や継承に力を注ぐ職人の方々と関わる活動を通して、奈良県で受け継がれてきた伝統文化の良さに気づき、文化や技術の継承を願って自分にできることを考え、進んで地域社会に関わっていこうとする態度を育てる。

3. 単元について

(1) 教材観

本学習は、児童が奈良県の伝統工芸品についての関心を高め、長く続く伝統文化を次世代へ受け継ぐことを目的に、児童の意識と行動の変容を促すことを目指すものである。奈良県の伝統工芸品は、どれも深い歴史を持ち、一つ一つ職人の手仕事、匠の技によって生み出され、魅力にあふれている。しかし、現代、ニーズの減少、後継者不足、類似品の大量生産等の問題があり、存続の危機に直面していることを捉えていきたい。

本学習で取り上げる奈良県の伝統工芸品は、五つ。奈良墨、高山茶筌、奈良筆、赤膚焼、奈良団扇である。どの工芸品も魅力は然る事ながら、伝統工芸品を生み出す職人にも魅力が溢れている。職人に出会い、想いを聞き、児童にとって身近な存在になってもらうことで、伝統工芸産業の抱える問題に対して、伝統工芸文化を大切にしていきたいという次世代の担い手意識がより高まると考える。今回は、五つの伝統工芸品の中で、奈良墨に焦点を当て、伝統工芸を広める活動に取り組んでいく。

(2) 児童観

一学期の社会科「くらしを支える水道」の単元では、浄水場見学の後、節水を広めることを目的に他学年へのスライド発表、ポスター制作を行い、節水を呼び掛けた。自分達の学びを活かして、下級生に考えを広めるために行動することを学習した。本学習では、広める対象を主に学校の外に設定し、スライド以外の新たな手段で広める経験をさせたい。

また、四年生の児童は、知識として奈良県の伝統工芸品を知っている児童は多いが、東登美ヶ丘小学校の校区内の歴史が浅いこともあり、伝統工芸品にゆかりがある児童は、ほとんどおらず、奈良県の伝統工芸品が児童にとって身近なものではない。重ねて、奈良県の伝統工芸品の魅力を知る児童も少なく、体験等、実際に触れる機会を通し、身近なものになるように学んでいくところからスタートする必要があると考える。

(3) 指導観

第一次では、まず、奈良墨を使ったにぎり墨体験を行う。実際に奈良墨に触れ、作り方や触り心地を知り、職人と触れ合い、奈良県の伝統工芸品奈良墨を児童にとって身近なものにさせることがねらいである。さらに、奈良墨について聞きたい質問を職人にオンライン授業で答えてもらい、奈良墨について深く知っていく。

その後、他の伝統工芸品（高山茶筌、奈良筆、赤膚焼、奈良団扇）の職人をゲストティーチャーとして招き、深く知りたい伝統工芸の一つを選び、実演や職人の話を通して学んでいく。第一次では、伝統工芸品の魅力は、工芸品の良さはもちろん、伝統工芸を受け継ぐ職人の人柄や守ってきた想いもあることを児童に気づいてもらいたい。そこで、職人にオンライン授業をしていただいたり、手紙を書いていただいたりし、児童が作り手にも注目するように工夫する。また、この体験的活動を通して、伝統工芸品の良さだけでなく、伝統工芸産業が抱える問題（ニーズの減少や後継者不足など）があることも知っていく。

最後に、奈良墨が売れていないことに気づき「自分なら奈良墨を買うか。」を問いに設定し話し合う。奈良墨の良さや課題等が出てくる中で、奈良墨を未来に受け継ぐためには、たくさんの人に奈良墨の良さを知ってもらうことが必要であると気づかせたい。そして、奈良墨の良さを広めるためには、どうすればよいのかを考えさせたい。

第二次では、「伝統工芸を広めるために私たちにできることを考えよう」という問いのもと、奈良墨の墨匠と児童が相談を重ねながら、児童が考えた奈良墨を広めるための取り組み（例 パンフレットづくり・ワークショップづくり・新商品づくり etc.）を形にするために活動する。奈良墨を広めるための行動を考え、アドバイスをもらいながら、より良いものに改善していく。本学習で得る経験を今後の場面でも生かせるようになってもらいたい。

第三次では、より多くの人に発信する手段の一つとして、プレスリリースに挑戦する。また、学年末の参観では、学習の過程、奈良県の伝統工芸の魅力、奈良墨を広めるために児童が取り組んできた行動をふり返る。自分たちの学習過程をまとめ、学習発表会でも伝統工芸品の魅力を伝え、児童が形にした、新商品やワークショップ、パンフレットを紹介して保護者に広めていきたい。奈良県の伝統工芸品（奈良墨）を深く探求していく本学習を通して、奈良県の魅力の一つに伝統工芸があがり、郷土愛を深める一部になってほしい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…様々な「もの」や「こと」、人々の思いや願いが関連し合って、今の伝統が受け継がれている。

連携性…様々な立場の多くの人々が協力して、今も伝統的な文化が受け継がれている。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング：自分たちの身近にある伝統的な「もの」にこめられた、様々な人たちの努力や思い、願いなどに着目する。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正：これまでも現在も、様々な人たちが伝統的なものを受け継ぎ、大事にしてきた。そして、その思いはこれからもつないでいくべき大切なものである。今後は自分たちがそのバトンを受け継ぎ、奈良の伝統を守っていくという責任を担っていくひとりであるという自覚を持っていきたい。

・達成が期待される SDGs

- 4 質の高い教育をみんなに
- 9 産業と技術革新の基盤づくり
- 12 持続可能な生産と消費

4. 単元の評価規準

ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に取り組む態度
<p>①体験や職人の方々との関わりから伝統工芸の良さを多面的な角度から気づき、それに関わる人々の取組や想いを理解している。</p> <p>②体験や職人の方々との関わりから、伝統工芸の問題に気づいている。</p> <p>③伝統工芸を未来につなげるための方法としてプレスリリース等、様々な表現方法があることを理解している。</p> <p>④奈良墨等の伝統工芸を学ぶことを通して、奈良県の文化に魅力に気づいている。</p>	<p>①課題解決に必要な情報を比較し、関連づけながら、伝統工芸の未来について考えている。</p> <p>②奈良県の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに課題を設定し、課題解決に向けて方法や手順を自分事として考えている。</p> <p>③伝統工芸品(奈良墨)の未来について考え、自分達にできることを具体的に検討している。</p> <p>④課題解決にむけて、伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ適切な方法で表現している。</p>	<p>①奈良県伝統工芸の職人の方々の想いにふれ、実際の体験を通して、良さに気づき、奈良墨を継承するのに、自分も貢献したいという気持ちをもって活動している。</p> <p>②体験活動を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、奈良墨職人の方と協働して、課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③課題解決のために行った表現方法をこれからの生活でも生かそうとしている。</p>

5. 単元の指導計画 (全32時)

時	主な学習計画	学習への支援	評価(△) 備考(・)
1	○固形墨を使用した水墨画体験を通して、固形墨に興味を持つ。	・見た目、香り、書き心地、水が溶ける様子を体験し、固形墨に興味を持たせる。	△ア①
2	○様々な種類の墨を比べて、奈良墨を観察し、奈良墨作り体験に向けて、奈良墨や職人(長野さん)に対する質問や疑問を持つ。 ・1400年以上前からこんなにすごい奈良墨があるんだ。 ・奈良墨を自分も作ってみたいな。 ・どうやって作っているんだろう。 ・どうして職人になったのかな	・奈良墨当てクイズを通して、奈良墨の観察をする。 ・錦光園の紹介動画を見せ、奈良墨作り体験を主体的に取り組めるようにする。 ・長野さんへの質問カードを書き、全体で疑問・質問を共有する。	
3	○奈良墨作り体験を通して、伝統工芸品(奈良墨)の魅力に触れ、身近なものとして捉える。	・奈良墨の魅力に気づくように体験活動をする。	△ア①②
4	○オンライン授業で長野さんの想いを聞き、奈良墨について詳しく学ぶ。	・奈良墨の魅力・長野さんの人生観、想い・奈良墨産業が直面している課題	
5	○奈良墨職人の長野さんの話、奈良墨体験を振り返り、奈良墨の魅力・長野産の想い・奈良墨産業の課題・課題解決に向けた取り	・課題解決のための取り組みの観点で話してもらう。	

	組みをまとめる。		
6 ～ 7	○奈良県のような伝統工芸品（高山茶筌、奈良筆、赤膚焼、奈良団扇）について学習し、さらに深く学びたい伝統工芸を選ぶ。 ○ゲストティーチャーとして講義して頂く職人さんへの質問や疑問を整理し、グループ内で共有する。	・職人の方からの手紙をもとに、出 会いたい職人を選び、グループ分け をする ・学年単位でグループに分かれて、 各伝統工芸の歴史・製作工程等工芸 品の概要を学び、興味を持たせる。	△ア①② △ア①②
8 ～ 9	○各伝統工芸の職人からの授業を通して、各伝統工芸品の魅力に触れると同時に、伝統工芸産業が抱える問題をつかむ。 ・奈良には、魅力ある伝統工芸品がたくさんあるな。 ・伝統工芸品が直面している問題は大きいな。 ○各伝統工芸の職人から聞いたこと（魅力や課題）をまとめる。	・伝統工芸品（赤膚焼、奈良団扇、奈良筆、高山茶筌）の歴史・技術、また、職人の人生観・想いを肌で感じ、伝統工芸品の魅力を感じるとともに、身近なものとして捉えさせる。 ・各伝統工芸産業が直面している課題・課題解決のための取り組みをおさえる。	△ア①②
10	○今までの活動をふりかえり、奈良墨について考える。 ・奈良墨のいいところは、発見したけれど、現状は厳しいな。	・奈良墨が直面している課題について資料をもとに話し合う。	△イ① △ア①②
11	○奈良墨との未来について考える。	・奈良墨を自分なら買うかを話し合うことで、自分事としてとらえることができるようにする。	△イ① △ウ①
奈良墨を広めるために、自分たちはどのような取り組みができるだろうか			
12 ～ 14	○資料を活用し、奈良墨の良さを広めるために、自分達ができることを考える。 ・新商品を作りたいな。 ・伝統工芸品、職人の魅力を伝える記事を作り、SNS や販売店に掲示してもらえようようにお願いをしよう。 ・奈良墨の魅力を広めるワークショップを作りたいな。 ○プレゼンテーションを通して、長野さん	・奈良墨作り体験やゲストティーチャーの講義から学んだ、伝統工芸を広めるための取り組みをふり返る。 ・「児童が学習を経て知った魅力を知らない人に伝える」観点のもと自分たちにできる取り組みを考え、共有する。 ・1組商品開発チーム、2組ワークショップチーム、3組学校内に奈良墨の魅力を広めるチーム、4組記事作りチームとして学年単位でグループ分けをする。 ・それぞれグループに分かれて、自分	△イ② △ウ① △イ③④

	<p>に自分たちが考えた広める方法を聞いてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの考えをうまく伝えるにはどうしたらいいかな。 <p>○スライドを利用し、自分たちの考えをまとめよう。</p>	<p>たちの提案を考える。発表練習を積む。</p>	<p>△ウ①②</p>
15 ～ 19	<p>○長野さんの前で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの考えを長野さんに伝えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館で全員が集まって、それぞれのグループの発表を聞き各クラスで行っていることを全体で共有する。 ・長野さんからの評価をもらう。 ・各グループのプレゼンテーションを長野さんに聞いてもらい、実現できることを選んでもらう。 	<p>△イ③④ ウ①</p>
20 ～ 24	<p>○長野さんからいただいた意見を元に自分たちの考えをまとめ、実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品と商品のイメージを具体的にしよう。 ・ワークショップについて具体的に考えよう。 ・3年生へのワークショップについて考えよう。 ・パンフレットの割り振りや担当を決めて、記事を作ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野さんからいただいたアドバイスを元に、自分たちが行うことについてまとめる。 	<p>△イ②③④ ウ①②</p>
25 ～ 32	<p>○作り上げた取り組みをもっとPRするために、プレスリリースを行う。</p> <p>○今までの学習をふり返り、活動してきたことを発信する学習発表会を開くための準備をする。</p> <p>○学習をふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで関わった報道機関に対して、児童が作る報道資料を送り、報道してもらえるように取り組む。 ・伝統工芸の職人さんとの出会い、職人さんの想い、伝統工芸の魅力を保護者に伝える。また、学習の過程をふり返りながら、自分たちの考えを話すように促す。 ・奈良墨を広めるために自分たちがしてきた行動（例 新商品・記事・ワークショップ作り etc.）の過程をふり返りつつ、保護者にPRし、広める。 ・参加者にアンケートをとり、活動の振り返りをしやすくする。 	<p>△ア③ △ウ① △ア④ イ①②③④ ウ①②③ △ウ③</p>

6-①本時の展開 (1/32)

指導者： 山本 達也

本時の目標

奈良県の伝統工芸品である奈良墨と墨汁を比較し、奈良墨に興味をもつことができる。

(1) 展開

段階	学習活動	主な発問と指示 (◎) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 評価基準 (評価方法)
導入	1. 固形墨を使ったことがあるかの確認をする。	◎固形墨を擦って習字をしたことがありますか。 ・したことない ・習字教室でやってる。 ・家でやってみた	
固形墨と墨汁を書き比べてみよう。			
展開	2. 習字の準備をする。 3. 普段の墨汁を使った習字の書き方で文字を書く。(漢字の一) 4. 墨のすり方を説明する。 5. 書いた文字を比べる。 6. 複数の固形墨を値段順に並べ替えをするクイズをする。 7. 奈良墨で文字を書いて見せる。	◎実際に比べてみましょう。 ◎墨汁で漢字の一を書いてみよう。 ◎実際に墨を擦って漢字の一を書いてみよう。 ◎比べてみたら、どうでしたか。 ・色がうすい ・にじまない ・上手になった気がする。 ◎どれが一番良い墨でしょうか。 ・これがいい。 ・金色の模様が入っているからこれ。 ◎これが奈良墨です。どうでしょうか。 ・ちょっと違う。 ・にじまない ・色が違う。	書き比べるのに、一枚の半紙を半分折って折り目を付ける。折り目で分けて上下に書き分けて比べる。固形墨と墨汁との違いを考えている
まとめ	8. 固形墨と墨汁で書き比べた感想を紙に書く。 9. 固形墨について知りたいことを紙に書く。	◎感じたことを書いてみよう。 ・あるのは知っていたけど、使ったのは初めてだった。 ・墨汁とちがった ・次の習字から、こっちでやりたい。 ◎固形墨について知りたいことを考えてみましょう。	書いてみた感想をワークシートに書く △ウ① (ワークシート) 固形墨について知りたいことを考えている。

6-②本時の展開 (5/32)

指導者： 島田 歩実

(1) 本時の目標

奈良県の伝統工芸品の中から、興味を持った伝統工芸品について調べることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	主な発問と指示 (○) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 評価基準 (評価方法)
導入	1. 奈良墨以外の伝統工芸品には、他にどんなものがあるのか興味を持つ。 2. めあての確認をする。	○奈良墨以外の伝統工芸品には、どんな物がありますか。 ○それらの歴史や背景はどのようなものでしょうか。	・奈良県の伝統工芸品に赤膚焼、奈良団扇、奈良筆、高山茶筌があることに気付かせる。
それぞれのグループに分かれて、伝統工芸品について歴史や背景を知ろう。			
展開	3. 赤膚焼き、奈良団扇、奈良筆、高山茶筌、4つの伝統工芸品にスポットを当てて、ゲストティーチャー (GT) の話を聞く事前調べをする。 4. グループで考えた質問や疑問を考え、共有する。	○それぞれの伝統工芸士についての動画や写真を見ながら、工芸品の素晴らしさを知りましょう。 ・○○代目と受け継がれていくのが分かった。 ・動画を見ながら、技のひとつひとつを受け継ぐのは難しいと思った。 ・GTに聞いてみたいことがたくさん出てきた。 ○赤膚焼き、奈良団扇、奈良筆、高山茶筌、4つの伝統工芸品の中で知りたいことを質問としてまとめましょう。 ・どれくらいの時間がかかって技を身につけるのだろう。 ・どうして伝統工芸を受け継ごうと思ったのかが知りたい。	・学年のクラスに分かれて各伝統工芸の歴史・政策芸品の概要を調べ、興味を持たせる。 ・伝統工芸士の動画や写真、手紙などを読んで、出会ってみたい伝統工芸士を選び、グループ分けをする。 ・GTへの講義の前に質問や疑問を整理し、グループ内で共有する。 ※質問を考え、発表をする △ア①②

(1) 本時の目標

奈良墨を自分なら買うか話し合い、奈良墨との未来について考える。

(2) 本時のめあて

奈良墨との未来を考えよう。

(3) 展開

段階	○学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	○前時の復習をする。 ・奈良墨の今は、きびしい。理由は、墨屋さんが残り8軒になっているし、書道人口も減っているから。	○資料を提示する (資料1)	
展開	<p>○自分なら奈良墨を買うかについて考える。</p> <div data-bbox="470 842 1171 916" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分なら、奈良墨を買いますか。</div> <p>○自分の意見を書く。 ○近くの人と意見交換をする。 ○意見を全体で話し合う。 <買う> ・においがいいから ・見た目がいいから ・長野さんが頑張っているから ・奈良の伝統工芸品だから ・買わないと伝統がなくなるから ・誰かに買ってもらいたい <買わない> ・高いから ・不便だから ・手間と時間がかかる ○奈良墨を広めるために自分たちができることについて考える。</p> <div data-bbox="308 1610 1326 1680" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">奈良墨のいいところを広めるために、自分たちができることは何だろう。</div> <p>・ポスター・チラシ・イベント・マスコットキャラクター等</p>	○友達の意見にリアクションして、自分の意見を話すように声掛けする。	自分の考えを友達に伝えることができる。(思考・判断・表現)
まとめ	○本時をふりかえる。 ・ふりかえりからまとめを考える。 ○次時の見通しをもたせる	○本時のめあてをふりかえりながら、子ども達でまとめられるように促す。	友達の話を聞き、自分の考えを深めることができる。 △イ① △ウ①

7. 成果と課題

《成果》

- 導入の工夫で、奈良墨に対する関心が向いた。
- 学習問題を「自分事として捉える」ために、体験、活動、交流を多く取り入れることが効果的だった。
- 企業に計画や教師の思いを伝えることで、協力を得て大きな取り組みができたと思う。
- 持続可能な社会の担い手を育成するときに企業やメディアとつながり、世の中に広める行動をとることで、奈良墨を未来へ繋げるイメージを持てた児童は多いのではないか。
- プレゼンや、地域社会の中での行動は、児童の意識を変え、可能性を広げると思った。
- 総合の時間を改めて、見直すきっかけになった。

《課題》

- 教師側の負担が大きく、時間数の確保や内容の精査をすることが難しかった。
- 衰退産業・子どもとの関わりが薄い題材を自分事として捉えることの難しさを感じた。
- 「深める→広める」の授業の展開パターンを増やす必要を感じた。
- 奈良墨を救ってあげたいを動機にして活動していた児童が多かった。救いたいという自分事に捉えてもらうことの難しさを感じた。

8. 単元構想図

み
つ
め
る

固形墨って知ってる？

使ってみよう！

水墨画って楽しい

濃淡が面白い

書き心地が気持ちいい

奈良県の伝統工芸品「奈良墨」について知ろう。

- 1400年以上前に中国から明日香地方に伝わった。
- 国が指定する伝統工芸品である。
- 奈良市で全国の墨の95%が作られている。
- 一つ一つ職人さんの手作り
- 昔はたくさんあった墨屋だが、今は奈良県で8軒しか残っていない（全国では9軒）

どんな職人さんだろう

もうすぐなくなってしまうかも

にぎり墨体験をしよう。

墨匠にインタビューをしよう。

他の伝統工芸の職人さんにも聞いてみよう。（奈良筆・高山茶筌・奈良団扇・赤膚焼）

し
ら
べ
る

墨の作り方が知れた

世界に一つだけの墨ができた

後継者問題

書道人口の低下

同じような問題・守りたい想いは同じ

50年後の未来も、奈良墨は、受け継がれているのだろうか。

ふ
か
め
る

難しいと思う。墨屋の数や、売り上げも減っているから。

難しいと思う。書道人口が低下していて、使われる機会が減る。

奈良墨の魅力を知らない人に、広めたら、受けつぐことができると思う。

香り墨が人気商品なように、他の魅力に特化したものを広めれば受け継がれると思う。

ひ
ろ
げ
る

わたしたちが、奈良墨を広めるためにできることは何だろうか。

新商品を作って、奈良墨の良さをPRしたいな。

新ワークショップを使って奈良墨を知らない人に広めたいな。

記事作りをして、お店に貼ってもらったり、新聞やメディアに取り上げてもらいたいな。